

# 平成23年第4回定例会一般質問

第73回全国都市問題会議から学んだこと

2011/12/13

古河市議会議員

園部増治

13番議員、朋友会の園部増治です。

議長のお許しをいただきましたので、質問通告に従い「第73回全国都市問題会議で学んだこと」から質問をさせていただきます。

去る10月6日・7日に全国市長会・東京市政調査会・日本都市センター及び鹿児島市の主催による「第73回全国都市問題会議」が鹿児島県鹿児島市・鹿児島市民文化ホールにおいて開催され、全国から約2,000名の首長や議員が参加しました。古河市からも朋友会を始め創政会、無党派の会の議員19名が参加をいたしました。今回のテーマは「都市の魅力と交流戦略」サブテーマが「地域資源×公共交通＝地域活性化」でした。

会議の冒頭、東日本大震災で亡くなられた方々に対して、ご冥福を祈り黙とうがささげられました。開会式では、まず開催市の森博幸・鹿児島市長が歓迎の挨拶を述べられました。「今年3月12日に九州新幹線が全線開業しました。鹿児島には桜島と温泉があります。西郷隆盛や大久保利通、篤姫などの歴史的人物もおります。さらに、黒豚やいも焼酎などのおいしいものもたくさんありますので、鹿児島の多彩な魅力を堪能して下さい。」と述べられました。

次に、今年は3月11日に東日本大震災が発生し大きな被害が出たため、「3・11からの復興と安全なまちづくり」と題して東京大学都市工学専攻教授の大西隆先生による特別講演が行われました。今回の震災の復興には約23兆円の子算がかかると言われていますが、スピードを上げて産業の復興を図る

ことが先決です。安全なまちづくりは、しっかりとした計画を立てることが必要あり、また、防潮堤などの防災施設・住宅の高台移転等の安全なまちづくり・避難施設の整備や避難訓練の徹底という3つを組み合わせ、防災から減災へという考え方をしていくことが必要だと力説されました。

その後の基調講演は、「九州新幹線とまちづくり」という演題でJR九州社長の唐池恒二氏の講演がありました。吉本喜劇のような楽しい話でした。「3月12日の九州新幹線全線開業時のCMがユーチューブで流れたのがきっかけで大ヒットになり、去年の1.7倍の利用客がありました。この効果を九州全域の「面」へと広げていきたいと思っています。そのために観光列車を地域の資源にしていきたいという発想から、「指宿の玉手箱」「SL人吉」「いさぶろうしんぺい」「はやとの風」「海幸山幸」「あそぼーい」などの列車を九州各地に走らせています。別府や湯布院、黒川温泉の取り組みはもとより、長崎も久留米も博多も駅ビルだけにとどめないで街を歩いていただける取り組みをしています。都市の魅力の三要素は「安心・安全」「歩く楽しさ」「食とお土産」であると思います。その他のポイントとして地域の共同体意識、誠実、おもてなしの心と表現が挙げられます。そして、まち全体に「気」やる気・元気・本気といったいわゆる緊張感があることが必要だと思います。」と述べられました。

1日目午後は、鹿児島市長の主報告「新幹線の開業効果をまちの力に」～地

域特性を活かした魅力づくりと情報発信～がありました。九州新幹線全線開業を5年後に控えた平成17年に「鹿児島市観光未来戦略」を策定し15の重点目標を掲げて官民一体となって各種の取り組みをしてきたとのことであります。

次の一般報告は、「リクルートじゃらんリサーチセンター客員研究員」の佐藤真一氏の報告でした。熊本県黒川温泉やJR九州の成功事例から「協働による推進・自分サイズの戦略・皆でやること」この3つが観光振興だけでなく地域活性の場面で必要であり、JR九州では地域らしさを観光列車にデザインするという価値の創造がありますが、いかにデザインをするかということが地域活性化の最も重要な視点であると思います。」と述べられました。

1日目最後は、「上田市の魅力づくりと地域活性化」いう演題で長野県上田市・母袋創一市長の報告でした。母袋市長は10年間県議会議員として活動された後、平成14年に旧上田市長に就任しました。「周辺3町村との合併を実現した今は、10年先20年先を見据えて新生上田市の基礎を築き未来を創造することが私に課せられた責務であると考えています。そして、地域活性化のために首長は、地域の資源を発見して、新しい価値を創造していくことが大事であると考えています。上田市は菅平高原や美ヶ原高原、別所温泉や丸子温泉に代表される温泉地もあります。また、戦国の英雄・真田幸村の故郷として、真田一族の歴史とロマンを活かした街づくりに取り組んでいます。NHKの大

河ドラマに取り上げていただくべく真田氏6文銭の旗印にちなみ666,666人を目指して署名活動に取り組んでいます。」と述べられました。

2日目には、パネルディスカッションが行われました。コーディネーターのNPO法人地域力創造研究所の佐藤喜子光先生は、「地域資源は、ダイヤモンドと同じで地下に眠っているは何の価値も生まれないので、発掘して商品化していくことが必要であり、異文化交流手段いわゆる公共交通を使って、地域の商品を買って頂いたり、サービスを提供していくことが、地域力の創造に結び付いていく。」と述べられました。

また、パネリストの豊橋市の佐原光一市長は、「豊橋市は、東海道のほぼ中央に位置しており、鉄道網の結節点として発展し、平成8年に市制施行100周年を迎え、平成11年に中核都市に移行しました。街づくりにあっては、誰もが暮らしやすい環境負荷の小さい「歩いて暮らせるまち」の実現を目指しています。また、「手筒花火」「総合動植物園（のんほいパーク）」「路面電車」「食文化」を4つの柱にシティプロモーションを展開して、地域力を高めていきたいと思っています。」と述べられました。

さらに岡山県倉敷市の伊東香織市長は、「倉敷市は、355km<sup>2</sup>、人口は48万人です。星野監督や高橋大輔さんの出身地です。市政の柱として、「子育て支援」「安心安全」「個性と魅力を伸ばす」を掲げています。瀬戸大橋や大原美術館、水島コンビナート、児島の繊維産業、白桃やマスカット、スイートピーな

どの農産物、色々なところがあるのが魅力です。このような異なる魅力をコラボレートすることで、さらに新しい魅力を創造していきたいと思います。」と述べられました。

2日間の研修は大変に有意義な研修であり学ぶべき点が多々ありました。

去る11月26日にはアド街ック天国で古河市が紹介されましたが、古河市にも隠れた魅力、地域資源が沢山あると感じました。テレビで放映された効果もあり、1週間後に行われた提灯竿もみ祭りも大盛況でした。

そこでお伺いをいたしますが、古河市の魅力と交流戦略についてどのように考えているか。

また、地域資源と公共交通を組み合わせることで地域を活性化していくためにどのような取り組みをしていくか。

さらに、「シティプロモーション事業」への取り組みについてお伺いをいたしまして1回目の質問といたします。

## 【2回目】

それでは、自席より 2 回目の質問をいたします。

全国都市問題会議において学んだことから、古河市に当てはめて考えた場合はどうかということでご答弁をいただきました。また、古河市の多彩な魅力をご紹介いただきました。

10 月 17 日に名崎工業団地において「日野自動車古河工場」の起工式が行われました。日野自動車の誘致は、古河市の将来にとって大きな布石になるものと考えております。また、約 10 年後には、本社機能が古河工場に移るということでもありますので、雇用の確保や経済波及効果、財源確保という点でも大きなものがあると思います。

私は、起工式を終えて自宅へ戻る途中感じたことは、数千人の従業員は張り付き、駅を利用する人が格段に増加すると言われておりますので、この 10 年間で街づくりの正念場であると感じました。頭に浮かんだのが新市建設計画の中にある先導的プロジェクトです。今、筑西幹線道路が 4 号バイパスまでの整備が進んでいますが、これを西側へ延伸して新駅へ繋げていくことが 3 市町の一体感の醸成になり、魅力的なまちをつくっていくことになると強く思いました。

地域資源というものを考えた時に、特に公共交通ということで考えると、鉄道とりわけ J R が通っているということは、地域資源の最たるものであると考

えます。茨城の西の玄関口、そして北関東の中核都市を目指していくのであれば現在の古河駅に加えて新しい駅をつくりより大きな核にしていくことが必要だと思います。JR宇都宮線にも東鷲宮、新白岡、土呂、自治医大など新しく出来た駅がいくつもあります。現在の古河駅と新しい駅を古河市の顔として整備していけば必ず古河市の将来にとって魅力も持てる街づくりにつながるものと確信をいたしております。

そしてその資源を活かして、いかに創造していくか、デザインをしていくかということが大切になってくると思います。

11月産業建設常任委員会の研修で青森県十和田市を訪れました。十和田市は青森県南東部に位置し、今から150年前に開拓の鋤が入れられました。街は碁盤の目状に整備されており「近代都市計画のルーツの地」と呼ばれています。現代アートで街づくりを行っていましたが、開拓の理念が街に新しい息吹を吹き込むという現代アートのまちづくりにつながっているということでした。十和田市現代美術館は、2008年に24億円の事業費をかけてオープンしました。こんな不景気の時になぜ箱モノを作るのかという批判もありましたが、市長がより魅力的で美しい景観を作り出すとともに未来に向けた新しい街づくりをしたいという確固たる信念のもとに、市民の声を聞きながら丁寧に説明をして理解を得たということでした。また、世界に通用するアートでなければ国内での集客も見込めないという考えのもとでこの美術館は造られ、入館

者は当初の予想をはるかに超える年間 17～18 万人を数えているとのことであり、年間 6 億円の経済効果が上がっているということでありました。さらに美術館前の官庁街通りは、日本の道 100 選に選ばれており、歩道も広くゆったりとしており、桜と松の並木と季節の草花が植栽されていました。

新しい駅を考えた時に、街をデザインする、創造していくという観点からも現代アートのまちづくりも考えられると思いました。また、たとえば軽井沢駅のように駅前に鉄道でも車でも利用できるショッピングモールを作るとか、映画館を作るとか、駅の近くに保育所をつくるとか、市役所の出先の施設をつくる、情報センターをつくる古河ブランド品の直売所や農産物の直売所などもいいと思います。さらに、花と緑のまちづくりでお客さんを迎えて、おもてなしをする。そしてそこへ筑西幹線道路をつないでいくということになれば、とても魅力的なまちづくりができるものと考えますが、御所見をお伺いいたしまして 2 回目の質問といたします。

### 【3回目】

それでは、3回目の質問をいたします。

私が、今回の全国都市問題会議に参加して感じたことは、古河市の文化の底上げも大事ですが、と同時に新市建設計画に示されている先導的プロジェクトである南古河駅の設置や筑西幹線道路の4号バイパスから西側部分の延伸も合わせてをお願いしたいということであります。古河市が今最優先に取り組まなくてはならないのは、経済波及効果が大きく、将来財源確保につながる事業ではないでしょうか。それと、市民が何を望んでいるか期待しているかということのを的確にとらえていくことが必要であると思います。駅を作って街を活性化するということは、町の方針により昭和58年に新駅設置期成同盟会ができて、平成8年に都市計画決定を受けております。網がかかっておりますのでただ高い固定資産税や都市計画税だけを取られて土地利用もできずに困っております。困っているところへ手を差し伸べ、光を当てていくのも行政の役割ではないでしょうか。困っている地域を助けて、恒久的な財源の確保ができるようなまちづくりをお願いいたします。

また、先程の市長の答弁の中に「若い人のアイデアを活かしていきたい」という答弁がありましたが、総和工業高校生が公共施設整備に関するアンケート調査をしております。古河市にはどんな公共施設が欲しいですかという問いで1番多かったのが映画館、2番目が新駅という大変興味深い結果も出ており

ます。

新駅と答えた人にその理由を尋ねたところ、通勤通学が大変なため、朝夕駅前が送迎車で混雑している、古河駅と栗橋駅の間にあると自宅から利用する場合近くなるので、地域の活性化、駅は古河駅だけでなく日野自動車ができることから東京方面に行く人口も増加が考えられるため、新しいまちづくり・古河市発展のため、駅周辺の便利が良くなる、仮称南古河駅・地域発展のため、古河駅と栗橋の間に徒歩で行ける場所、古河駅と栗橋駅の間が長すぎて不便、東京方面に行きやすいから、利便性と経済波及効果、大学に行きやすい、駅ができると聞いて30年近くになるが一向にできないので早く作ってほしい、日野自動車の建設が決定したことは人口の増加が想定されるし当然人の出入りが頻繁になりますので駅が必要になります。駅周辺に病院があると良い、日野自動車等の進出により旧古河駅だけでは混雑が予想される、などの理由が挙げられておりました。

陸川副市長がいつも「新市建設計画は尊重しなければならない」と申されておりますので、特に先導的プロジェクトは尊重をしていただきまして、魅力あるまちづくりに取り組んでいただきたいと思います。また、ありとあらゆるメディアを使って情報を発信して、古河の魅力を内外に発信していただき、住んでみたい、住んで良かったと言える古河市にさせていただきますようお願いをいたしまして一般質問を終わります。ありがとうございました。